



卓 話



「国際協議会報告とRIの方向性」

国際ロータリー第2580地区

ガバナー 櫻井 権司氏

国際協議会の前にノミニエレクトや皆さんからご指導いただき、次第にガバナーとしての心づもりが出来てきました。そして今年1月14日より、丸一週間、サンディエゴのホテルにて国際協議会に参加し、勉強をしてきました。このスケジュールの内容は大変ハードで、月曜日から土曜日まで会議があり、やっと土曜の午後の閉会式のあと、ホテルの外に夕方になってはじめて出るというようなものでした。一週間のうちにおよそ14回の本会議があります。その内のひとつに、RIの理事を務めた渡辺好政さんの「職業奉仕について」という日本語のスピーチがありました。それ以外は英語によって行われ、次々RIに関わる大きな役職を持っている方による、1〜2時間くらいの本会議となります。それを聞いているとRIが今何を考えているのかおおよそわかってきます。そのような本会議が終わった後にグループディスカッションということで言語別に分かれます。15人程のグループディスカッションは、その本会議で話された事を自分はどう聞き取ったか、又それと併せて本会議で話された事を地区の皆さんにどのように説明するかを話し合います。RIの人道的な進め方と日本の職業奉仕を軸とした進め方にギャップがあったものですから、私達はRIから色々説明を頂いた部分について、どう日本に持って帰るかを中心に、6時の夕食ぎりぎりまで話し合いました。その後、配偶者と共に出席をするダンスパーティがあったり、「国際祭りのタベ」ということで日本文化紹介イベントの準備や、リハーサルなどのスケジュールに追われるのですが、時としてロータリアンはそういう場でも、隅の方でグループディスカッションを蒸し返して話し合ったりします。そんなことで自分の部屋に帰るのは殆ど12時近くで、次の朝は8時半から集合ですので6時半には起きなくてはならないという毎日を送っていました。ここで2580地区のリーダーであるガバナーとして、しっかりやらなくてはならないという意識が出来上がっていったような気がします。



第一回目の本会議ではリ・ドンコンRI会長の初心である「夢を形に」ということが発表されました。そこで今日着

ているネクタイ、ジャケットにもついているマークも紹介されます。RI会長をはじめ、誰もが緊張している中、発表された第1番目の強調事項はまず「水」という事でした。浄化された水を手に入れるため、幼い子供達が2キロ、3キロ歩くという役割を果たさなくてはならないという劣悪な環境下の地域があります。この状況下に、毎日5歳以下の子供が毎日6千人の子供が亡くなっていると発表されました。2番目は飢餓・保健という事で、これは主に栄養失調の事です。栄養が満足いく状態でない為に、ちょっとした事で亡くなってしまふ、つまり熱、下痢、寄生虫等の保健問題によって、簡単に子供が命を落としてしまふ、10人の子供が生まれると7人この飢餓保健問題で命をおとってしまうという話でした。

3番目として識字率があげられました。この事は何年も前から言われているのですが、字が読めない為に仕事がない、もしくは低賃金の仕事、状況の悪い仕事しか貰えない、又親が字が読めない為に、生活の知識を子供に与えられない事が問題となっている地域があるそうです。

これら3つの事項が満たされていない為に、5才以下の子供が1ヶ月に3万人亡くなっています。もう3、4年これらの問題をとり挙げていますが、RI会長は改めて、この3つの強調事項をかかけていました。そしてこの3万人の子供の死亡率をなんとか下げていこうという思いで「夢を形に」というテーマを選択しました。この「夢」というのはロータリアンの夢ではなく、子供達の夢です。この夢というのは例えば、明日生きる、明日の食べ物を確保する等、子供達の夢を叶えるようにしてあげようという事なのです。

また、RI会長はクラブに10パーセントの増強をお願いする事もおっしゃっていました。そして1地区2つのクラブを拡大して欲しいとの事で数字をかかげました。これには日本のロータリアン達は驚きました。どうして今この時期に10パーセントの増強を求めるのか、RIは相変わらず財団金を集める為にメンバーを増やせと言っているのかとの声も聞かれました。

RI会長は世界10数カ所で会員増強の為の講演をし、7月7日にも日本にお見えになりました。講演の第1番目として東京を選んだという事は、日本のロータリーの元気がなくなってしまうっており、その元気を取り戻して欲しいという願いがあるからです。今ロータリークラブの会員は122万人いますが、RI会長が望んでいる数字が実現すると130万人になります。そのロータリアンの手で3万人の子供に夢を与えようという事なのです。人道的な支援はロータリー財団を通じて展開する事が多いのですが、これからはロータリー財団にお金を集めてただ消えてしまうのではなく、3万人の

子供の明日も生きていたいという夢を何とか叶える為に、きちんと使うことを今回RI会長はおっしゃっています。ですからその「夢を形に」するのに、もう少し会員の増強をお願いしたいとの方針をご理解頂きたいと思います。

さて、よくロータリーは倫理運動体である。だから職業奉仕を機軸に活動をすべきだという事を聞きます。私もそれに賛成です。ただ、倫理運動体であるとするとか運動をしていかななくてはなりません。つまり倫理観を持ち続け、それと併せて運動、つまり活動しなくてはならないのです。では倫理を維持する為に、何故奉仕活動なのか、という事になります。これは私の考えなので様々な考え方があると思いますが、職業奉仕観はロータリーの様々な奉仕活動を通して、自らの魂を磨いていくものだろうと理解しております。そしてロータリーで奉仕に関わる事により、自らの魂が磨かれて人間性が高まる、そして人間性が高まる事によって徳が積まれると思っています。徳が積まれた人間というのは、そこにいるだけで人が集ったり、議論がまとまるものです。私はそうした徳の積まれた人間になりたいと思い、ロータリー活動をしています。自分の魂が磨かれる、倫理観が高まるという事で、職業奉仕と奉仕活動が一体となって初めて運動になるので、ロータリー活動は倫理運動体となるという思いで職業奉仕を理解しています。

これは京セラの稲森氏がお話された事ですが、いわゆる倫理観というものは、5才になるまで親に躰けられたものであり、挨拶にはじまり、嘘をついてはいけぬ等と、躰けられた事を持ち続ける事が大切なのだという事でした。基本的に親から躰けられた事をきちんと守る事が大切なのです。しかし、残念ながら社会には誘惑があります。自分の欲求もあります。常に自分に教えられた倫理は社会のシステム上、劣化される状況にあるのです。そういう劣化を防ぐため、ロータリーの例会に参加する事が大切であるというのが私の考えです。

これより地区のお話をさせていただきます。今期地区で室制度を設けました。何であなたは混乱することをするのか、とおしかりを受けたこともあります。今このロータリーでも会員制度が減っている中、こちらの四谷ロータリーではさほど大きな減少が見られません。常に60人代は維持されているという事ですばらしいと思います。しかし他のクラブでは10年前に比べて50パーセントを割っているクラブもあります。浅川氏から私の年に引き継いだ時も70名以上のメンバーが減り、1クラブ以上のメンバーが退会されてしまいました。このような現象は10年以上続いています。各クラブの会長はこれをくい止めようと、魅力のあるクラブ作り、活力のあるクラブ作りに毎年大変な努力をされていますが、この会員減少がとまりません。そうした時、地区の役割は何であろうと考えると、もう少し地区の組織がクラブのサポートをする為の組織である事をはっきりさせないといけないと考えました。地区の役割はクラブやクラブの会長をサポートするだけにあると言い切っても良いのではないかと考え、私の年度は室制度を設けました。

各クラブの様々な状況というのは分区単位のガバナー補佐に聞けばおおよその事は分かりますし、直接私に何か話しをするよりも、各クラブ会長はガバナー補佐に話をしやす

いと思いますので、ガバナー補佐がしっかりとサポートすれば良いと考えています。

地区委員会の場合は、本来なら私が地区委員会を管理すべきですが、なかなか目が行き届かないというのが実情です。時として地区委員会は委員長、副委員長、委員と3年続けて担当する方もおり、このようなシステムであると、私よりも委員会について詳しいという委員も多くいらっしゃいます。そうした中、地区委員会は地区委員会のために活動をしてしまっていることがあり、クラブの本当の様子をつかんで活動する地区委員会が少ないように思えました。そこで室長をおいて委員会を管理してもらう、ということで室を設けました。具体的には4大奉仕を室とし、そして皆さんに浄財を頂くような部分を基金推進室とし5室を置きました。その5室により、それぞれの委員会を把握して頂きます。そしてガバナー補佐と室長と私達とで1カ月おきに地区チーム協議会という会議を開催し、それぞれ委員会が何をしようとしているのかを報告して頂きます。又皆さんからガバナー補佐に伝えて頂いた地区への色々な注文や、クラブの情報をすぐに解決していきたいと考えています。この室制度については、各クラブの会長が強いリーダーシップを持って1年クラブを運営して頂き、会員はその会長の元にしっかり集まり、1年間ロータリーの目的に沿って活動を刻んでいくという事をお願いしたいと思います。地区はこの様な体制を採りましたので、時に行き詰まったり問題が生じたり、情報が欲しかったりといった時は、ガバナー補佐に伝えて頂き、地区チーム協議会にお持ち頂ければ、すぐに対応致しますので是非地区を活用して頂ければと思います。小さな事ですが、最近そういう室制度を設けた為、基金推進室と国際奉仕室が手を組んでポリオの撲滅という一つの活動を試みていますし、環境保全委員会と広報委員会が組むなど、今迄委員会独自で動いていた問題について、協同で活動をするようになりました。これは地区で何かをしようというよりも、クラブの活動をサポートするような形にする事で、地区制度はいい方向で動き出したと思っています。

最後にポリオの問題です。ポリオも今4ヶ国のみが発症となりました。1980年頃からロータリーはポリオ撲滅で動きだし、大阪大会では撲滅宣言をしようという事で皆さんから無理にお金を集めた事もありましたが、残念ながら撲滅には未だ至っていません。しかし残り4ヶ国のみになりましたし、それもスポット的に出ているだけです。いつの日か終息宣言をしたいとRIは考えています。ですからビルゲイツ財団とロータリーで1億ドルずつ出資し、撲滅していくプログラムが組まれました。私の地区でも協力しなくてはならないと考えています。1985年ポリオ撲滅活動をした山田氏、峰氏はWCS活動をし、そのために風土病で亡くなりました。こうした事を踏まえ、彼らを追悼する意味で「山田さん、峰さんポリオ寄付」として地区独自のプログラムをスタートしています。皆さんにもお世話になると思いますのでお願いします。

地区の動きは地区のリードでというより、クラブのサポートをしていくという事で進めて行きたいと思っていますので、地区を上手く利用して頂き、四谷ロータリーがすばらしいクラブになる助けになりたいと思っています。